

2024年度 第63回京都府バスケットボール選手権大会  
個人トータル

男子  
決勝

令和6年6月30日 15:00 開始  
京都市横大路運動公園体育館

京都産業大学 76 { 14 1st 24 }  
                          { 19 2rd 21 }  
                          { 21 3nd 14 }  
                          { 22 4st 13 }  
                          ot  
72 同志社大学

番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
1	森本 凜	6	2	0	0	1	3	磯部 昂斗	10	1	3	1	0
4	片原 飛斗	6	0	2	2	4	4	石原 史隆	10	0	4	2	1
5	松下 遥輝	0	0	0	0	1	6	上野 嘉一	7	0	2	3	1
7	木野 来優						17	鬼防 壬陽人					
9	宇都宮 陸						20	安藤 嘉紀	2	0	1	0	1
12	太田 凜	10	2	1	2	0	22	長谷 誠也					
13	大石 日向	9	0	3	3	2	23	西村 陽太朗	10	1	2	3	1
18	橋本 真尋						25	天野 幹也	2	0	1	0	1
20	落合 旭	17	0	6	5	1	28	山藤 幸太	2	0	1	0	2
22	中井 柁希	0	0	0	0	1	30	島倉 欧祐	2	0	1	0	3
24	アジャイ アーノルド	17	0	7	3	2	32	柄澤 日向	7	1	2	0	4
29	河本 昂也	2	0	0	2	0	35	秋田 楓季	3	1	0	0	0
31	島原 拓己						37	門川 太一	2	0	0	2	5
33	星野 翼	2	0	0	2	2	39	ヴァイクル オレザツカリ	5	1	1	0	2
75	坂下 聖稀	7	1	1	2	1	44	雀部 翔生					
97	井藤 匠哉						47	波多野 心優	10	0	4	2	2
コーチ	丸岡 祥人						コーチ	村上 和之					
Aコーチ	村上 和之						Aコーチ	三木 力雄					
	合計	76	5	20	21	15		合計	72	5	22	13	23

主審 飯尾 勝紀

副審 第1 片山 峻  
第2 三宅 廉二

〔戦評〕

男子決勝は7連覇を目指す京都産業大学と、2015年以降の優勝を目指す同志社大学との対戦となった。両チームは今年度京都府大学競技会においても決勝を戦っており、その際は90対81で京都産業大学が勝利している。

1Q 立ち上がり、京都産業大学の3連続得点で流れを掴むが、同志社大学も3番の3Pやファーストブレイクなどで対抗する。両チーム高い強度のDFで均衡した試合が続く中、京都産業大学のチームファウルが5つとなり、同志社大学はフリースローから加点する。京都産業大学は12番を中心に攻めるが、シュートが決まらず、苦しい展開となる。10対20とダブルスコアとなったところで京都産業大学が前半1つ目のタイムアウトを要求した。タイムアウト明け、同志社大学はオールコートゾーンDFに切り替え、ミスを誘う。第1Qは14対24と同志社大学がリードして終えた。

2Q 第2Qに入っても、キックアウトからの連続3Pなどで加点する同志社大学の流れは続く。京都産業大学は苦しい状況が続くが、24番がペイント内の得点で気を吐くが、同志社大学はスポットでDFをハーフコート3-2ゾーンへ変更し、対応する。流れを変えたい京都産業大学は残り2分、13点と差がついたタイミングで前半2回目のタイムアウトを取るが、差は縮まらず、12点差で前半を終えた。

3Q 第3Q同志社大学は4番を中心に落ち着いてゲームをコントロールする。DFにおいても、ハンドオフを多用する京都産業大学に対して、ファイトオーバーでハッスルし、ベンチも盛り上がり、チームとしても一体感を醸成する。京都産業大学も負けずに、1番の連続3Pなどで抵抗する。フリースローなどで手堅く加点した京都産業大学はその差を5点と縮め、勝負は最終Qへ。

4Q 第4Q京都産業大学がスティールからファーストブレイクで加点し、勢いづく。12番の3Pが入り、1点差になったところで同志社大学がこの試合初めてのタイムアウト。残り7分、京都産業大学がファーストブレイクからの得点でついに逆転する。均衡した時間が続くが、残り1分14秒、京都産業大学4番のファーストブレイクで得点し、流れを再び引き戻す。同志社大学は最後ファウルゲームを仕掛けるが、京都産業大学4番が落ち着いてフリースローを沈める。最終プレーで同志社大学4番が3Pを放ったところ、ファウルをもらいフリースロー3本を得るが、決めきれずに試合終了のブザーがなり、76対72で京都産業大学が7連覇を果たした。

所属 京都府バスケットボール協会

戦評者 渡邊直裕

2024年度 第63回京都府バスケットボール選手権大会  
個人トータル

女子  
決勝

令和6年6月30日 13:30 開始  
京都市横大路運動公園体育館

京都精華学園  
高校 73

22	1st	18
16	2rd	7
18	3nd	17
17	4st	23

65 立命館大学

番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
4	林 咲良	6	0	2	2	1	4	西村 香凜	3	0	1	1	3
5	橋本 芽依	28	4	3	10	1	5	柴田 柚菜	14	0	6	2	1
6	桃井 優	9	1	1	4	2	7	大西 乙華	0	0	0	0	0
7	大久保 舞奈美						8	竹本 菜々美					
8	山口 優利亜						10	亀田 樹里	2	0	1	0	1
9	金丸 千蓮						11	古澤 青依	2	0	1	0	2
10	岡本 桜						12	山本 遙香	12	2	3	0	5
11	米島 愛樺						13	矢原 百華					
12	関 晴香						14	柴田 柑菜	14	0	6	2	3
13	五味 桜愛						15	林 優芽	0	0	0	0	0
14	金谷 悠加						16	永野 紗弥香	15	1	4	4	3
15	フリップス 千子ヌクラ	24	0	12	0	5	17	呼子 真洸					
16	石渡 セリーナ	6	0	3	0	1	19	金光 由蘭	3	1	0	0	2
17	坂口 美果	0	0	0	0	0	20	木村 香穂	0	0	0	0	1
18	エアサ ホランレ アイシャツ						21	原田 倫					
19	大田 楓						22	竹中 凜					
コーチ	山本 網義						コーチ	野老 稔					
Aコーチ	豊田 薫						Aコーチ	古室 紀和					
合計		73	5	21	16	10	合計		65	4	22	9	21

主審 小出 聡子 副審 第1 中西 啓太  
第2 小柿 茉智子

〔戦評〕

2年連続優勝を狙う、京都精華学園と昨年の雪辱を果たしたい立命館大学の決勝。

- 1Q 京都精華学園高等学校4、5、6、15、16、立命館大学4、5、11、12、16でスタート。立命館大学の激しいDFに対し、京都精華学園は素早いパッシングで対抗。京都精華学園は15の高さを生かした得点でリードする。立命館大学は16の連続得点で一時逆転するも、15の得点や6のFTなどで再び逆転して、22—18京都精華学園がリードして第10終了
- 2Q 京都精華学園は5を起点にファーストブレイクやインサイドで効果的に得点していく。対する立命館大学は京都精華学園の激しいDFの前に攻めあぐみ、残り5分31—22と京都精華学園にリードを広げられたところで立命館大学はタイムアウトで立て直しを計るもターンオーバーが続き思うように得点できない。逆にリードを広げられてしまい、38—25京都精華学園のリードで第2Q終了
- 3Q 京都精華学園は5や15の得点を中心にスコアを伸ばす。京都精華学園は一時17点差までリードを広げる。立命館大学も激しいDFでターンオーバーを誘い、10のレイアップや3ポイントなどで粘るも15の連続ゴールなどリードを守る。56—42と京都精華学園がリードをわずかにひろげ第20終了
- 4Q 立命館大学は点差を縮めたく、オールコートDFでプレッシャーをかけて、京都精華学園のターンオーバーを誘発する。途中7—0のランで残り2分には1点差まで詰める。対する京都精華学園は残り1分で15がファウルアウトで苦しい展開になるが、3点差の残り30秒で6が3P Tシュートを沈め勝負あり。73—65で京都精華学園が2年連続優勝を飾った。

所属 京都府バスケットボール協会

戦評者